

つつじも藤も、大型連休を待たずに咲き誇り早くも夏の香りを感じるようになりました。

会員の皆さんにはお変わりありませんか？

振り返りますと、去年の5月10日にこのニュースレターの第1号を発信してから

今回が早いもので第20号になりました。

お陰様で会員の皆さんからのお誘いで新しいお仲間をを迎えることが多くなりました。

また、身近な話題や勉強会の様子などを、進んでお寄せいただくようにもなりました。

とても嬉しいことです。

今回はそんな最近の動きや話題をお伝えしましょう。



◆新加入の会員をご紹介します

◇ 正会員1校、連携会員2校、特別会員1社が加わりました！

➤ 九州地区では **神村学園専修学校** が正会員なって

くださいました。大変ありがたく心強いです。

お電話で日本語学科の大山千佳子先生にいろいろ教えていただきました。

「鹿児島県のいちき串木野市にあり、ベトナム、ネパール、台湾、スリランカなどから集まった50名ほどの留学生在が学んでいる」そうです。

「学園の敷地内に幼稚園から小・中・高校、そして専修学校があつて、日本語科の学生も小学生と交流したり、高校の授業を聴講したりできる」とのこと。

すばらしい環境で勉強できる留學生はうらやましい限りです。また

「いちき串木野市ではお祭りや地域のイベントが大変盛んで、留學生に参加してほしいという声が絶えない」そうです。

これからは地方への貢献も私たちの使命のひとつかもしれません。

<http://angel.kamimura.ac.jp/>

◇ 続いて、連携会員として加わってくれた学校です。

➤ まずは九州地区の **明日香日本語学校** をご紹介します。

大分県の大分市にあり 1992年に設置以来多くの卒業生を輩出してきました。校長の田中由視先生と電話で入会のお礼を申し上げたところ、

「こちらこそよろしく。一緒に頑張っていきましょう」と熱い言葉を頂戴しました。

副校長の渚洋行先生ともお話しできましたが、
「現在、ネパール、ベトナム、スリランカ、中国、韓国、アメリカなど多国籍の学生が専門学校や大学への進学を目指して 80 名ほど学んでいる」
そうです。

「調べて発表するという授業を積極的に取り入れていて、進学後にも生かせるプレゼン力を身につけさせたい」とおっしゃっていました。

「大分県には大学など日本語が学習できる機関はいくつもあるものの、日本語学校としては大分で唯一です」とのお話に驚かされました。

<http://www.asuka.ac.jp/nihongo/>

- 本協会を長年支えてくださっている 東京外語専門学校 と同じ学校法人、東京国際学園の **東京外語日本語学校** が連携会員として私たちの仲間に加わってくださいました。

校長の木村雅之先生に日本語教育で目指していることを伺ったところ、「日本語だけでなく留学生にしっかりとキャリアプランを持ってもらえるように指導したい」ということでした。

「そのため、コースの途中でキャリアガイダンスなどを行って、学生に進学・就職までのプランをしっかり立ててもらおうようにしている。それは日本語の学習意欲とも大いに関連があると思う」というお話でした。キャリアガイダンスでは常に学生の立場に立って卒業生を招いて進学先の話などもしてもらっているそうです。

<http://www.jli-tflc.jp/>

- ここでは一部しか紹介できないのが残念です。どの学校も個性的でそれぞれ違った魅力をお持ちだと実感いたしました。そのような皆様とお互いに刺激し合ってレベルアップしていければと思っております。

◇ 新しい特別会員もご紹介しましょう。

- **Flywire GK** は学費の代行決済などを手掛ける会社です。

4月20日に Country Manager 在日代表の遠藤仁さんと Sales Manager の狩野愉加さんがわざわざ事務局にあいさつに来てくださいました。

日本語教育にまつわる話をいろいろと語ってくださり、以前感動した留学生のスピーチについて語る遠藤さんは、まるで自分教え子の話をしている教師のようでした。

「質の高い教育をしている全専日協の会員といっしょに日本語教育を盛り上げていきたい。スピーチ大会などのイベントの時にもお手伝いできることがあったらお声掛けください」とのことでした。

<https://www.flywire.com/>

◆ ゼンセン *Topics*

本協会の理事としてご尽力いただいている **ECC 国際外語専門学校** の長岡昭彦先生からメールが届き、中を開くと「ゼンセン Topics の記事をまとめましたので掲載の機会がありましたら活用してください」とのこと。

中身は大変興味深い実践紹介でした。お近くの先生方にぜひご紹介下さい！

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校 日本ビジネス専攻(大阪府)

授業公開 留学生が主体的に「ビジネス日本語」を学ぶ。

ECC 国際外語専門学校では、2年前より iPad×ロイロノート・スクールを活用して、学生達が主体的に「使えるビジネス日本語」を学ぶように Active Learning の手法を取り入れています。

指導手順

1. ロール・カードに書かれた場面を理解する

配布されたロール・カードを読み、場面を理解する。
ロール・カードの内容は、1週間の学習内容に沿ったもので、カード内には会話作成のヒントを<使用語彙・表現>として提示されている。学生は3～4人のグループに分かれ、互いに理解内容について意見交換し、共通認識を得る。



2. 場面に応じたビジネス会話を作成する

グループごとに、場面に応じたビジネス会話をホワイトボードに書き出す。その際、文法や発音、表記のチェックをグループ内で行う。それでも残った誤用は教師がその箇所に下線を引いて指摘する。学生は再考と訂正を重ね、会話を仕上げていく。仕上がった会話は写真に撮り、教師に提出する。



3. 会話再生のための練習をする

ホワイトボードを見ながら役割を決め、会話を再生する。その際、グループメンバーは互いに協力しながらアクセントやイントネーションをチェックして、意見を出し合う。他にも、表情や立ち居振る舞い、会話の間合いなどにも注意を向けながら、ホワイトボードを見ないで会話が再生できるまで練習を重ねる。



4. 会話を再生し、動画を撮影する

ホワイトボードを見ないで会話が再生できるようになったら、動画で記録する。撮影場所、小道具、文字情報の追加、カット割りなども含め、グループごとに工夫をして3分以内の作品として仕上げる。場面に合った表情、立ち居振る舞いなどの非言語情報も考慮しながら行う。



5. 動画を鑑賞、フィードバックを行う

グループごとに制作した3分以内の作品をクラス全員で鑑賞する。表情、立ち居振る舞い、全体の流れなどについて、良かったところ、もっと工夫が必要なところなど意見を出し合う。

学生が見落とした点については、教師が補足説明をする。



6. 写真と音声による作品を鑑賞し、フィードバックを行う

音声情報に重点を置きたい場合は、動画撮影ではなく、会話の流れに沿った写真を何枚か撮り、写真に音声情報を加え、スライドショーで鑑賞する。母音、子音、拍、アクセントの正確性をチェックし、文末イントネーション、話すスピード、間合い、相槌の仕方などの効果について確認する。

授業成果

担当：川岡ちはる 専任講師

音声指導にロイロノートが役立ちました。文字カードに音声教材のテキスト情報を入力し、色ペンで正しいアクセント・ラインを加えたものを配布し、学生はそのカードに自分の音声を録音して提出。別の色ペンで学習者のアクセント・ラインを上書きし、返却しています。

学生は自分の発話を視覚的に確認でき、「教材の音声と同じように発話しているつもり」の学生にとって、弱点の把握に大いに役立っています。

- 録音、録画を何度でもやり直せるので、学生は提出期限のぎりぎりまで自発的に練習を重ね、一番仕上がりが良いものを提出することができます。
従来のような「本番一回が勝負の発音テスト」と比べると、取り組みが丁寧に行えます。



➤ みなさん、いかがでしたか？

担当の川岡先生にお尋ねしたところ、

「この授業をするには Wi-Fi 環境が必要です。学生たちの日本語力は N2 相当レベルで、初回は 90 分×2 コマ程度かけてアプリの使い方から丁寧に説明しますが、授業に慣れてくると、90 分程度の授業でこのような授業が行えるようになる」とのことでした。

➤ 日々の授業に Active Learning や ITC を取り入れるというのは、避けて通ることのできないことですね。しかし、新しいものが次々と現れ、なかなか手が付けられないという先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

全専日協ではこのような教育活動について総会企画やニュースレターなどを利用して会員間で情報交換ができる場を提供していきたいと思っています。

* 今後も会員の皆さんから旬の話題がありましたらお知らせ下さい。

お待ちしております！



大沼会長の故郷 飯山市の菜の花 (4/30)

2018年5月1日
全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当